



2011年 ドリームごよみ 8月



高次脳機能障がい者活動センター調布ドリーム

残暑お見舞い

申し上げます



絵手紙の作品です(本文参照)

8月の予定 (都合により変更もあります) ご見学・ご参加 大歓迎です~。

日	月	火	水	木	金	土
	1 休	2 SST(さ) カラオケ	3 グッズメイク 音楽	4 料理 MT バザー準備	5 料理の買物 卓球	6 料理教室 反省会
7 家族/当事 者の集い	8 休	9 頭の体操 運営委員会	10 グッズメイク 音楽	11 頭の体操 バザー-SST	12 工作 卓球	13 チャリティー バザー
14 休	15 休	16 絵を描こう 頭の体操	17 朗読 詩を書こう	18 映画 MT ジャズピアノ	19 料理 MT 卓球	20 ゲーム大会 映画「ダ・ヴィッド」
21 休	22 休	23 認知リハ ゲーム	24 グッズメイク 音楽	25 料理 MT ラボ&MT	26 ゲーム大会 未来計画	27 SST(麦) 絵手紙
28 休	29 休	30 認知リハ 料理 MT	31 編物教室 音楽	火曜日~土曜日 10:00~15:00 10:00 ラジオ体操 MT ミーティング、 SST 社会技能訓練		

調布ドリームでは、みんなが呼称を申告し、対等で打ち解けやすい呼び方を取り入れています



7月のご報告



【第14回ドリームサロンが行われました】

7月23日土曜日、活動センターにおいて、「第14回ドリームサロン～高次脳機能障がいを知ろう、語ろう、もっと身近に」が行われました。 트레이ニーや家族以外に地域の方に10名ほど参加していただきました。

今回は、元東京都職員であり、また当会理事の田中眞知子さんを講師に迎え、「高次脳機能障害の分かりやすい話」という内容の講演をしていただきました。高次脳機能障害とはどのような障害なのか、また何故起こるのか等、今まで高次脳機能障害という言葉に馴染がなかった方にも、分かりやすい内容のお話でした。

講演以外にも、参加者全員による簡単自己紹介や歌なども行いました。サロン終了後も、皆さん話が盛り上がり、良いひと時となっていたようでした。今回のドリームサロンをきっかけに、当事者や家族、そして参加して下さった皆さんの交流が深まれば幸いです。(いしちゃん/職員)



「若いてすばらしい！」～第14回ドリームサロンに参加して～

暗い出来事が続くなか、一筋の希望の光のように「なでしこジャパン」優勝！のニュースが飛び込んできました。祝勝の余韻が残る7月23日、味の素スタジアムに近いドリームの活動センターでサロンが開かれたのは、何かのご縁かもしれません。サロンは、トレーニーとご家族の息が合い、暑さとハートの熱さに満ちていました。ルナさんの指揮で「若いてすばらしい」を歌うみんなの顔は、生活年齢に関係なく若さにあふれていました。ヤングハート、ネバーギブアップハートの集まりです。代表のちずさんの活動紹介の後「こうじのうきのうしょうがい」の話をしました。照明を消した会場で、肩を寄せ合うみんなの真剣な眼がスライドに集中していました。

質疑では、「地域生活支援ハンドブック」や、手帳の更新手続きのこと等が出ました。障害者にとって、親切で使いやすい制度やサービス充実の課題を痛感しました。(まちこさん/当日の講師)

サロン参加者のコメント



「土曜日、いしさんと一緒にサロンの司会ができて、本当によかったです。いしさんが色々と助けてくれて、私は、本当に助かりました。色々と教えてくれて頼りになりました。みんなから比べればまだまだ若い、この私を宜しくお願いします。(マーくん/トレーニー)」 「ドレミの歌では、自分は“ソ”を考えた。まちこさんの話はわかりやすかった。(とよさん/トレーニー)」 「高次脳機能障害が先天的か後天的かという質問をして、後天的だと答えていただきました。私が思っていたことと同じでした。(なおさん/トレーニー)」 「すすむさんの話は、自分が再就職したときのために覚えていたと思った。自分の障害をあらためて考えて感じる事ができたサロンだった。(こうちゃん/トレーニー)」 「トレーニーが自分で考えて発表した言葉は、とても気持ちが伝わってきて、よかったです。障害者であることを認めて働くという、すすむさんの発表もよかったです。(けいこちゃん/家族)」 「頭の体操のとき、みんな声を出してくれて歌ってくれてうれしかった。全体的に良かったんじゃないかと思う。もうちょっとフリートークや情報交換の時間があっても良かったと思う。(こうすけ/職員)」

【卓球】

卓球は毎週金曜日に西調布体育館で午後1時～3時まで、前半はトレーニー全員それぞれの体調にあわせ、多球打ちの人、ラリーが続けられる人、スマッシュが得意な人、サーブからオールで出来る人、いろいろです。後半はゲームを楽しんでいます。トレーニーひとりひとりに合ったりハピリになっているかどうかは理解していませんが、私に出来る事をやっています。もう10年近く同じことを繰り返している気がします。



卓球連盟が主催の卓球教室(平成14年度)に参加されたのが出会いでした。教室のようなカリキュラムはなく個人別のカリキュラムです。時には試合のルールも話します。ゲームになると、みんなサーブを考えたり、コースをねらったり、スマッシュもあります。応援もすごい。やっぱり家族や仲間とやるゲームが一番楽しそう、こんな時のみんなの笑顔でホッとさせられます。

私はみんなの笑顔が大好きです。ありがとうございましたの笑顔、ナイスサーブ、ナイスコース、ナイススマッシュ、ラリーが100本、200本と達成したときの笑顔、たくさんの笑顔をありがとう。これからも楽しい卓球で笑顔を忘れないでネ。

(みねちゃん/コーチ)

卓球はおもしろい。最近、球を打てるようになった。そんなに疲れない。何しろ、肺活量が6000あったからね。

(とよさん/ 트레이ナー)

毎年のことながら、この時期実感するのが、西調布体育館(卓球場)の猛暑です。「冬寒く夏暑く」。そんな中、参加率が一番良いと聞くプログラム、卓球に思う。

参加者の「今日の一言」と「ラジオ体操」から始まり、トレーナーも職員も家族もコーチもボラも皆で、猛暑の中大変いい汗を流しています。最近特にサトシンの進歩は素晴らしいです。なべちゃんのフットワークも軽快です。マー君の持続性も伸びたと思います。こうちゃんも、こうきちさんも大汗を流しています。きみよしさんがコーチと対するスマッシュもビックリです。相手と一対で体を動かし、時には本能的闘争心が出て喜怒哀楽が自然に汗となって出る。これは最高のコミュニケーションではないでしょうか。暑さなんか吹っ飛ばして、これからも頑張りましょう。(にしやん/ ボランティア)

【絵手紙】

絵手紙の提唱者小池邦夫氏の「下手でいい、下手がいい」に勇気づけられて、毎月1回、2009年から始めた絵手紙が、奇しくも丁度2年目の4月、事業所のプログラムとして再スタートしました。

花・野菜・果物、玩具など季節によっていろいろ。何でも画材となります。そして画材を目の前に置き、ゆっくり、ゆっくり描きます。ぶつつけ本番です。色をササッと塗ったら、余白に言葉を書きます。青墨で、はみ出すように輪郭を描く時、言葉を書く時、ドキドキします。そのドキドキ感がいい線になります。最後に朱の印(款)を押すと絵手紙全体が引き締まって生きてきます。

絵手紙は「絵画」でも「作品」でもなく、優劣はありません。絵を添えた「こころを届ける」手紙です。しかし、絵は目の前に用意された画材があるのでそれを選んで描きますが、そのあとにどんな言葉を書くか、「わからないよ」と、言葉が出てこない方もいます。自由に書くということは意外に難しいもので、テーマを決めたり、その人の歩んだ人生のこと、最近の生活の様子や家族のこと等について会話をすると、ポロっと素敵な言葉が出てきます。4月の、震災にあわれた人たちへの手紙は、当事者や家族でなければ書けない、深くてやさしい、希望につながる言葉が添えられた絵手紙になりました。

17年前「脳と心」というNHK科学番組で、プロデューサーが「絵手紙は脳と心を使うものだ」と述べた記事(2010年月刊絵手紙5月号)を読み、ドリームでの絵手紙はまさにその通りだと思いました。

一方、絵手紙をポストインするだけでなく、イベント等のチラシにイラストとして使わせてもらったりしています。大勢の人に絵手紙を見てもらうことで、啓発になると同時に、描いた当事者・家族も、自分の絵手紙が使われて喜ぶ様子を見ると、絵手紙の持っている意味の深さを感じます。

描き終わると全員の絵手紙を展示して、自分の描いた絵手紙への思いや、メンバーの感想を述べあいます。絵に添えた言葉への「思い」を聞いて、日頃はわからないトレーナーの心のうちがわかったり、皆さんから「よく描けている」と言われて笑顔がこぼれたりします。また、『下手だから、恥ずかしい、笑われると思っていたけれど「下手でいい」という言葉が気持ちを楽にしてくれた。楽しかった。』という感想等を聞くと、絵手紙をやってよかったなと思います。(エイ子さん/コーチ)



ひまわりの花、ほおずき、なでしこジャパンを題材に描きました。私はひまわりを描きました。先生に描き方を教えて頂きながら、元気なひまわりが描けました。とても楽しかったです。皆それぞれ個性が出ていてとても良く描けていました。(やまちゃん/トレーナー)



ご報告とご紹介

東日本大震災チャリティバザーのご報告

7月9日(土)チャリティバザーは猛暑の中、活動センター内にも売り場を広げて行われました。今回も地域の方々にたくさんの品物をご提供頂きました。

収益金、15,870円は、全額「NPO法人脳外傷友の会」へ送り、被災地の障害者の方々に届けられます。皆様ご協力ありがとうございました。



ご見学など

ご来所: Mさん(ご相談)、Sさん(食器等寄付)。

ご見学: 22日(金)Kさん(稲城市)、26日(火)社会福祉協議会の方々、27日(水)市民税課の方々。

ご寄付をよろしくお願ひします



松本和夫様より、コルクボード、マガジンラックをいただきました。ありがとうございます。引き続き温かいご支援をお待ち申し上げます。

【ご寄付のお振込先 郵便局 00180-9-651828 「調布ドリーム」】

通信欄に「寄付」と明記のうえ、ご氏名、ご住所、お電話番号をご記入下さい。追って領収書を送らせて頂きます。またドリームごよみにお名前を掲載させていただきますので、匿名ご希望の場合は、その旨も通信欄にご記入願ひます。

東京都の高次脳機能障害専用電話のご紹介

東京都心身障害者福祉センター 電話: 03-3200-0077

月～金 9時～12時、13時～16時(祝日・年末年始を除く)

とうきょう高次脳機能障害インフォメーション

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shinsho/kojino/index.html>



調布ドリームご利用ガイド

- * 活動日: 週5日(火～土)10時～15時。送迎なし。昼食は各自持参。
- * プログラム: 卓球、音楽、認知リハ、料理、編物、絵画、ドリーム・ラボ、SST、工作、絵手紙、ゲーム、カラオケ、グッズメイク、頭の体操、チャリティーバザー、ジャズピアノ、映画鑑賞、パソコン(9月開始)、地域イベント参加、ドリームサロン開催 etc.
- * 職員: 施設長1名、サービス管理責任者1名、支援員3名、
- * リハビリ講師: 15名、家族ボランティア・一般ボランティア数名
- * 定員: 20名 ご利用には受給者証が必要です。受給者証はお住まいの各区市の障害福祉課に申請。
- * 利用料は障害者自立支援法の規定に基づきます。所得により月額負担上限額があります。
- * 随時ご相談を受け付けます。まずは見学にお出でください。不明な点は、その際にご相談ください。

<<編集後記>>

前号は6月号でしたが、今号から「8月号」、つまり発行月を号数に用いるようになりました。今月は絵手紙による特別紙面です、ぜひ味わって下さい。(まっ)



「ドリームごよみ8月」2011年8月15日 発行

NPO法人高次脳機能障がい者活動センター調布ドリーム <http://www.chofudream.com>

(〒182-0036 調布市飛田給2-22-7 TBKビル1階、京王線「飛田給」駅南口徒歩1分)

TEL/FAX: 042-444-3068 E-mail: info@chofudream.com